地域医療センター地域医療連携通信

にじ

Kochi Health Sciences Center

高知医療センター各局による（薬剤局・看護局・医療技術局・栄養局・事務局）クオリティ・インディケーター（QI）クリニカル・インディケーター（CI）2016

2016 …… P2～5

紹介状なしで受診される場合の自己負担額について …… P6

地域連携病院のご紹介　Vol.89
医療法人恭愛会　田村内科整形外科病院 …… P7

高知医療センター イベント情報 …… P8

11
NOVEMBER 2016 Vol.133

10月8日、9日　城西公園にて開催された、がんと向き合うチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に当院職員が参加しました。

高知医療センターの理念　　ー 医療の主人公は患者さん ー

高知医療センターホームページ http://www.khsc.or.jp/

QI/CI 2016

高知医療センター

各局による

▶薬剤局 ▶看護局 ▶医療技術局
▶栄養局 ▶事務局

クオリティ・インディケーター（QI）/ クリニカル・インディケーター（CI）

薬剤局 における『医療の質向上への取り組み』

薬剤局長 山本 創一

薬剤局では、安全で適正な薬物治療を支援するために、薬剤師の病棟常駐、がん化学療法の安全管理、抗菌薬の適正使用や専門的医療チームへの積極的な参加など、様々な取り組みを行っています。同時にそれらの取り組みの一部については、客観的に評価する指標（クリニカルインディケータ）を設定し、薬剤局の業務の達成状況を確認しています。

表に平成27年度までの薬剤局のクリニカルインディケータを示しました。指標番号1、2の薬剤管理指導は、件数と実施率を指標として病棟で薬剤師の関わりがどの程度行えているかを評価したものであり、これにより入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を確認しています。4年前より新設された病棟薬剤業務実施加算は、現在も薬剤師のマンパワー不足のため、1病棟1薬剤師を配置できず実施に至っていません。病棟薬剤業務は、医師等の負担軽減、薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤業務として位置付けられ、持参薬や処方の確認、医薬品情報の提供、管理、他の医療スタッフとの連携等により薬物療法を事前にチェックする「投薬前の患者に対する業務」とし、最終的には投薬計画を提案することを主体としています。薬剤局で実施している薬剤管理指導業務は、「投与後の患者に対する業務」も合わせてこの病棟薬剤業務も包括して行っており、実施率が100％になれば病棟薬剤業務実施も可能となると考えています。平成27年度は、薬剤管理指導の実施件数は16,399件と減少していますが、入院患者数も減少したため実施率は77.8％と増加しています。入院患者数の増減にかかわらず100％を目指すために薬剤師職員の確保が重要な課題となっています。薬剤管理指導業務の実施時には、医師、看護師などの病棟スタッフや患者さんからの相談を受けたり、医薬品情報を提供することが数多くあります。指標番号3と4は、病棟でいかに薬剤師の業務が定着しているかを確認する指標です。病棟スタッフからの相談、情報提供は、年間6,395件、平日1日当り約26.2件（平日244日）でした。患者さんからの相談は、年間610件、平日1日当り約2.5件、病棟スタッフからのものを合わせると1日当り約28.7件で、病棟薬剤師1人当り（7人）では、指導業務以外に約4件の相談応需と情報提供を行っていました。

抗MRSA薬は、TDM(Therapeutic Drug Monitoring)による治療効果と副作用の発現についてエビデンスがほぼ確立されおり、抗MRSA薬の適正使用を推進する上で、TDMの実施は病棟薬剤師の重要な業務の一つです。TDM実施率は、主に入院患者さんのMRSA感染等に使用された注射用抗MRSA薬（バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン）の血中濃度測定により薬剤師が直接投与設計を行った割合を示したものです。平成27年度の実施率は、86.2％と年々増加しており、今後も医師への啓発を含め、実施率100％を目指し、すべての入院患者さんに抗MRSA薬のTDMによる支援を行っていく必要があると考えています。

薬剤局では薬剤師の専門知識、スキルを高めるために、様々な研修や学会活動に積極的に参加しています。指標の6番目に薬剤局の各種資格取得者数を挙げましたが、平成27年度は、日本医療薬学会認定薬剤師が2名新たに加わりました。スペシャリストのみならずジェネラリスト育成も重要であり、今後も質の高い薬物療法を提供していくために、新規取得者の拡大や継続を支援していきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考
薬剤1	薬剤管理指導実施件数（件）	15,599	17,560	16,399	年度	分子：－　分母：－ 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標
薬剤2	薬剤管理指導実施率（％）	72.0	64.0	77.8	年度	分子：実施実患者数　分母：全入院実患者数 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師 の貢献度としての指標
薬剤3	病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数（件）	6,288	7,050	6,395	年度	分子：病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数（件） 分母：－ 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標
薬剤4	入院患者からの相談件数（件）	2,128	1,497	610	年度	分子：入院患者からの相談件数（件） 分母：－ 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標
薬剤5	抗MRSA薬 のTDM実 施率（％）	79.8	83.7	86.2	年度	分子：抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母：抗MRSA薬投与患者数 備考：抗MRSA薬の適正使用に関する指標
薬剤6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数（人）	17	18	21	年度	分子：－ 分母：－ 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する

各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27	各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27
日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師	5	5	7	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	1	1	1
日本医療薬学会認定薬剤師	0	0	2	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	2
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	3	3	3	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師	2	2	1
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	2	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	2	3	3

看護局 における『医療の質向上への取り組み』

看護局長 田鍋 雅子

看護局では、2008年度より「看護の質評価指標」を想定し、改善目標として取り組みを進めてきました。2012年度からは看護局内に“看護の質評価委員会（現在は看護ケアの質委員会）”を設置し、指標の洗練化と規定した指標データを「改善目標としてのデータ」と位置づけ、PDCAサイクルを実践するための根拠として、データ収集と分析結果のフィードバックを行ってきました。2012年度から参加している「看護の質指標を用いたデータベースによるベンチマークシステムの試行調査事業」については、現在は、限られた一部の指標に留めています。

看護局からはこれまでと同様6つの指標データを報告いたします。指標①の「各資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有するものを資格取得者として報告しました。指標として挙げていませんが、専門知識、スキルを高めるために、さまざまな研修が受講できるよう支援しています。②は、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えていると言われており、当院の看護師の質を反映する一つの指標と考え、経年的に比較しています。③は、7.5％と若干低下していますが、全国平均の6.8％（平成26年度厚生労働省衛生行政報告例）を上回っています。男性看護師が増えることで、より幅広い看護の提供につながると考えています。④は、新人看護職員研修の充実と病院全体で継続して新人看護師を育てていることの証であると考えています。限りなく100％に近い数値をめざしていますが、看護師のライフイベントを考えると100％の目標達成は現実的でないと考えています。⑤・⑥は、減少しているものもありますが、数値よりもカンファレンスによるチーム医療の推進、医療・ケアの質向上や家族及び職員のグリーフケアが行われたことによる効果に目を向けています。

2010 年度から各部署のアクションプランに質評価指標となり得るような目標を設定し、定期的に達成状況を確認しながら質改善をめざした部署単位での活動を継続しています。質的評価指標としてまだ公開できる状況には至っておりませんので、公開できるよう検討を継続します。また、2014 年度からケアの標準化をめざして作成した「○○ケア基準」は、認定看護師や専門看護師を中心としたチーム活動により定着しつつあります。

以上、看護の質向上に向けたさまざまな取り組みは、単なる“点検・評価”に終わらせずに、深く考察し、学び（Study）、共有して、次の Act につなげてゆけるような PDSA（plan-do-study-act）サイクルとして継続していきたいと考えています。

看護局「看護の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子 / 分母および備考
看護1	各種専門領域認定資格取得者率（%）	15.6	17.6	16.1	年度	**分子**：各種専門領域認定資格取得者数（詳細は下記）　**分母**：看護局所属の全職員数　**備考**：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する（H25年度は106/681人、H26年度は122/693人、H27年度は113/704人）

各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27	各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27
がん看護専門看護師	2	3	3	日本糖尿病療養指導士	4	3	1
小児看護専門看護師	1	2	2	インターベンションエキスパートナース	9	11	7
老人看護専門看護師	1	-	-	呼吸療法士	14	24	24
母性看護専門看護師	1	1	1	消化器内視鏡技師	11	10	9
精神看護専門看護師	-	1	1	リンパ浮腫指導技能者	2	2	2
皮膚排泄ケア認定看護師	3	3	3	心臓リハビリテーション指導士	6	6	5
感染管理認定看護師	2	2	2	日本癌治療学会認定データマネージャ	4	2	1
集中ケア認定看護師	2	2	2	栄養サポートチーム専門療養士	1	1	1
救急看護認定看護師	3	3	3	高知県臓器移植院内コーディネータ	3	3	3
不妊症看護認定看護師	1	1	1	日本褥瘡学会認定師	1	1	1
新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	日本口腔ケア学会4級認定者	2	2	1
脳卒中リハビリテーション認定看護師	1	1	1	ICLS　インストラクター	8	7	6
小児救急看護認定看護師	1	1	1	JPTEC　インストラクター	2	2	3
慢性呼吸疾患看護認定看護師	1	1	1	AHA BLS インストラクター	2	4	1
手術看護認定看護師	-	1	1	高知県看護協会災害支援ナース	2	2	2
摂食・嚥下障害看護認定看護師	-	1	1	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	2	1	3
日本看護協会認定看護管理者	4	4	6	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	3	4	4
第一種衛生管理者	4	4	4	アロマテラピー検定1級	1	3	3
医療安全管理者認定	2	2	2				

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子 / 分母および備考
看護2	経験年数5年以上の看護師の占める割合（%）	73.2	71.8	71.7	年度	**分子**：経験年数5年以上の正規看護師数　**分母**：看護師（正規職員）数　**備考**：一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている
看護3	男性看護師割合（%）	7.5	7.8	7.5	年度	**分子**：正規男性看護師数　**分母**：看護師（正規職員）数 **備考**：男性看護師と女性看護師の考え方（視点）や、性差は看護の質に影響する
看護4	新卒新人看護師3年定着率（%）	86.4	79.5	87.5	年度	**分子**：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数（4月1日を起点とする）　**分母**：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 **備考**：臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護5	多職種カンファレンス件数（件）	1,846	1,944	2,227	年度	**分子**：実施件数　**分母**：－　**備考**：チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護6	デスカンファレンス実施率（%）	9.6	12.6	8.1	年度	**分子**：デスカンファレンス件数　**分母**：死亡退院患者数 **備考**：家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

医療技術局 における『医療の質向上への取り組み』　医療技術局長 西川 智彦

医療技術局では、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士の7職種が、自分たちが提供している医療および技術が本当に質の高いものであるかを客観的に評価するため平成23年度より安全とサービス、技術の3つの分野（4つの指標）で機能を数値化し継続的に公表を行っています。

下記の表には指標別に、平成25年度から平成27年度までのクリニカルインディケーターの経時的推移を掲示しています。安全の面からMRI検査室への金属の持ち込みによるアクシデントの発生について、これは患者さんの安全・安心を確保するための大事な値と考えています。

検査部門においては外来検査の報告に要した時間、病理迅速検査件数という事で患者さんへのサービスとして評価してきました。

また、技術の向上への指標としては医療技術局職員のスキルアップと専門性を高めるため、各種専門技術の認定資格を取得するよう努力した結果を数値で表しています。この4つの指標については、今後もこの数値を維持し質の高い医療および技術を提供して行きたいと思っています。

来年度は別の指標も選定し、取り組んで行きたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考
医技1	MRI検査室への持込禁止物によるアクシデント発生率（%）	0.00	0.00	0.00	年度	**分子**：持込禁止物の持込によるアクシデント発生件数 **分母**：MRI検査実施件数 **備考**：MRI検査では持込禁止物の持ち込みにより、強力磁石による吸着事故、高周波による火傷等の重大事故につながる。MRI検査の安全性を評価する目的で、持込禁止物によるアクシデント発生率を指標とした（H27年度は0/7,990件）
医技2	外来検体検査の報告に要した時間（分）	11.5	11.3	11.7	年度	**分子**：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の報告時間の統計 **分母**：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の件数 **備考**：報告時間は、検体が検体検査室受付登録から、結果が電子カルテに送信されるまでの平均時間 H27年度の項目別報告時間は血液ガス2分、生化学25分、血糖11分、CBC5分、凝固16分、尿7分
医技3	病理迅速検査件数（件）	387	394	459	年度	**分子**：組織診・細胞診の迅速検査件数 **分母**：ー
医技4	医療技術局に関する各種認定資格取得者数および取得者率（%）	60.7	75.0	81.0	年度	**分子**：各種専門領域認定資格取得者数（詳細は下記） **分母**：医療技術局職員数 **備考**：各分野の専門技術の質が向上する （H25年度は37/61人、H26年度は51/68人、H27年度は60/74人）

各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27	各種資格取得人数（人）	H25	H26	H27
細胞検査士	2	2	3	摂食嚥下障害分野認定言語聴覚士	-	1	1
認定臨床エンブリオロジスト	2	2	2	福祉住環境コーディネーター 2級	-	2	2
超音波検査士（血管領域）	1	1	1	核医学専門技師	1	1	2
超音波検査士（循環器）	3	3	3	第一種放射線取扱主任者	2	3	3
超音波検査士（消化器）	1	2	2	放射線治療専門放射線技師	1	1	3
輸血検査技師	2	2	2	放射線治療品質管理士	1	1	2
認定HLA検査技術者	2	2	2	検診マンモグラフィー撮影診療放射線技師	5	6	6
認定心電検査技師	4	6	5	緊急臨床検査師	1	1	1
認定管理検査技師	-	1	1	救急撮影技師	1	1	1
認定技術師　脳波分野	-	-	1	放射線管理士	1	1	-
認定技術師　筋電図・神経伝達分野	-	-	1	X線CT認定技師	-	2	2
消化器内視鏡技師	-	-	1	医療機器情報コミュニケータ（MDIC）	3	3	3
心臓リハビリテーション指導士	4	4	5	医療安全管理者	-	1	1
呼吸療法認定士	-	2	4				

栄養局 における『医療の質向上への取り組み』　栄養局長 山下 元司

栄養局では、全国に先駆けて開院時から各フロアに管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を実施してきました。この10年間で、栄養療法の重要性は、院内でも疾患治療の根幹だと認識され、各フロアの管理栄養士の必要性も当然のように認識されています。管理栄養士は、患者さんの治療経過と病状や臨床データを日々観察し、食事摂取量と共にモニタリング、アセスメントを行い、適切な栄養介入を行っています。開設と同時に稼動してきたNST（栄養サポートチーム）の効果も得られています。更に、手術前後の食事の摂り方や、慢性疾患等の食事療法と、食生活改善についての栄養食事指導を積極的に行い、早期病気回復、健康維持につながるよう努めています。

■各種認定取得の指標

高知医療センターの基本目標「医療の質の向上」に基づき、栄養局では管理栄養士の各学会等の認定取得を指標としています。認定取得を推進するために、学会発表や研修会に参加できるよう支援をし、積極的に認定資格取得にチャレンジしています。

■栄養指導実施率の指標

管理栄養士が、医師の指示の下に行う栄養指導の実施率を指標としています。管理栄養士は病状や、臨床検査データの推移を専門的な立場で評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。栄養指導を実施することで、患者さんの治療意欲が高まり治療効果が期待でき、退院後の食生活習慣改善等にもつながります。

透析予防チーム(医師・看護師・管理栄養士)の指導では、HbA1c、eGFRの改善効果が得られていますので、今後の指標として検討が必要と考えています。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考
栄養1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率(%)	39.4	37.5	40.8	年度	分子：個人・集団栄養指導の実施件数 分母：治療食加算対象患者数 備考：平成27年度は2,483/6,093件
栄養2	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	150.0	133.3	144.4	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する(H25年度は12/8人、H26年度は12/9人、H27年度は13/9人、)

各種資格取得人数(人)	H25	H26	H27
糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)	4	4	5
栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)	2	2	2
TNT－D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)	3	3	3
日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)	1	1	1
日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)	1	1	1
医療安全管理者(日本病院会認定)	1	1	1

事務局 における『医療の質向上への取り組み』　事務局長 浅野 忠

事務局では、「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組むとともに、医療現場がその機能を十分に発揮できるよう、人的及び物的な環境の整備をしっかりと行うことにより、県民、市民から信頼される高度急性期病院として高水準の医療が安定して提供できるよう努めています。

人的環境整備として、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカー等の専門職を採用するとともに、医師事務作業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、情報提供書等の書類の作成、学会関係のデータ登録や調査の実施等、医師の事務作業を軽減し、医師がより多くの時間を患者さんに向き合うことができるよう、体制強化に取り組んでいます。

今後も、より良質な医療が安定して提供できるよう取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考
事務1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	54.0	50.0	54.5	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する (H25年度は27/50人、H26年度は27/54人、H27年度は33/55人)

各種資格取得人数(人)	H25	H26	H27
診療情報管理士	9	9	10
医療情報技師	4	4	5
社会福祉士	9	10	10
精神保健福祉士	5	4	5

事務2	医師事務作業補助者(医療秘書)	17	29	45	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する

お知らせ

重要

紹介状なしで受診される場合の自己負担額について

平成28年9月1日から、紹介状を持参せず当院を受診される場合は、初診または再診に係る**選定療養費**として、保険診療費とは別に、以下の料金を徴収させていただきます。

◆**初診時**選定療養費：紹介状を持参せず、当院を初診で受診される場合にご負担いただく費用

◆**再診時**選定療養費：かかりつけ医へ紹介を行ったにも関わらず、引き続き当院を受診される場合にご負担いただく費用**（当該費用は受診の都度必要です）**

【～平成 28 年 8 月 31 日】

	初　診	再　診
医科	2,700円	0円
歯科	2,700円	0円

【平成 28 年 9 月 1 日～】

	初　診	再　診
医科	5,400円	2,700円
歯科	3,240円	1,620円

※今回の料金改定は、平成28年度診療報酬改定に伴い、500床以上の地域医療支援病院である当院も徴収を義務化されたことによるものです。

※救急患者さんなど、一定の要件に該当する場合は、選定療養費をお支払いいただく必要はありません。

【ご注意ください！】

※当院に初めて受診される場合以外でも、新たな疾病・治癒した後に同じ疾病で受診される場合には、初診時選定療養費をご負担いただきます。

※歯科とその他の診療科（医科）を同日に受診された場合（院内紹介を除く）は、それぞれの科において選定療養費をご負担いただきます。

当院では、地域の医療機関（かかりつけ医）との間の機能分担を推進し、患者さんに対してより良い医療を提供できるよう、今後とも日々の診療に努めてまいります。

患者さんにおかれましても、本制度の趣旨をご理解いただき、できる限り、近隣のかかりつけ医を受診されるようお願いします。

平成28年8月　高知医療センター　病院長

◇お問合せ◇

高知医療センター　事務局　経営企画課　TEL：088-837-3000（代）　FAX:088-837-6766

地域医療連携病院のご紹介 Vol.89

医療法人恭愛会　田村内科整形外科病院

〒780-0815
高知市二葉町10番10号
TEL：088-883-1777
FAX：088-883-1720

【診療科】
内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科
胃腸内科、リウマチ科、肛門内科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ～ 12:45	●	●	●	●	●	●	
14:00 ～ 17:30	●	●	●	●	●		

休診日：日曜日・祝祭日
整形外科は火曜日午後、木曜日終日休診

旧病院名は、田村外科胃腸科病院で、平成23年4月に整形外科を新設したことを契機に、病院名を田村内科整形外科病院と改名し、現在に至っています。

当院は、主に内科医3名（消化器内科医2名、循環器内科医1名）と整形外科医1名で診療を行っています。病棟は、急性期を扱う一般病棟30床と、慢性期を扱う医療療養病棟40床の合計70床から成っていて、急性期の患者さんから慢性期の患者さんまで幅広く診療を行っています。

当院では、常に「心」を大切にした診療を心がけており、「優しさ」「親切心」「思いやり」の3つの心をモットーに、「至誠」を尽くして診療を行うように職員一同頑張っています。

（田：田村内科整形外科病院、高：高知医療センター）

高：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

田：5年前に整形外科を新設したことにより、整形外科の診療の充実に力を入れています。リハビリテーションでは、広いリハビリスペースに5名の理学療法士を配置し、主に整形外科患者のリハビリを充実させるように取り組んでいます。また、画像ファイリング装置を設置し、医師が即座に画像をチェックできる体制を作りました。

内科では、上部消化管内視鏡（経口と経鼻内視鏡）と下部消化管内視鏡、ヘリカルCT、腹部エコーや心エコーなどを設置し、診療の充実に努めています。また血液検査機器でも、cobas6000ハイブリッドという高性能の検査機器を導入することで、迅速に血液データが得られ、診療の効率化と充実を図っています。

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

田：地域の診療所の先生方から入院の依頼があった場合は、できるだけ積極的に受け入れるように心がけています。また、当院の患者さんにおいても、専門的な治療や高度な医療が必要な患者さんにおいては、総合病院の先生方に積極的にご紹介をさせていただいております。逆に、総合病院から、整形外科の術後の患者さんや、その他の回復期の患者さんの逆紹介についても、可能な限り受け入れるよう心がけております。

高：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

田：現在、高知では、患者さんの高齢化が急速に進んでおり、ほとんどの皆さんが、整形外科的な問題や内科的な問題を抱えています。当院は、地域のかかりつけの病院として、整形外科部門と内科部門を、外来、入院ともに、さらに充実させ、地域の皆さんが安心して生活していけるように努力していきたいと思っています。

高：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

田：医療センターさんには、すべての科の先生方に大変お世話になっており、感謝しております。特に整形外科、消化器内科、消化器外科、放射線科の先生方には本当にお世話になっております。ありがとうございます。また、救急の患者さんに対しても、いつも快くお引き受けくださり、誠に感謝しております。今後も引き続き、地域の患者さんのために、ご支援ご協力のほど、どうかよろしくお願いいたします。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

高知医療センター　イベント情報

月	日	曜	内容
11月	16	水	**高知医療センター看護局集合研修　他施設公開研修**（参加費無料・事前申込要） 内容：高齢者ケア２ 急性期病院における高齢者ケア 場所：高知医療センター　１階　研修室１・２ 時間：17：30 ～ 19：00　対象：看護師（20名） 講師：高知県立大学　健康長寿センター　老人看護専門看護師　野村 陽子 氏 参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター　看護局　教育担当（野中、野田、藤本）　TEL：088（837）3000（代）
	20	日	**高新・高知医療センターがんセミナー 2016**（参加費要・事前申込要） 内容：血液のがんについて 場所：高新文化教室（RKC高知放送南館３階37号室） 時間：10：30 ～ 12：00　対象：一般（40名） 講師：高知医療センター　血液内科・輸血科　医長　町田 拓哉 お問合せ：高新文化教室　TEL：088（825）4322　受講料　1，500円／１回
	21	月	**高知医療センター看護局集合研修　他施設公開研修**（参加費無料・事前申込要） 内容：医療における倫理的課題 場所：高知医療センター　2階　くろしおホール 時間：17：30 ～ 19：00　対象：看護師（50名） 講師：国立大学法人　千葉大学　看護学部　教授　手島 恵 氏 参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター　看護局　教育担当（野中、野田、藤本）　TEL：088（837）3000（代）
	24	木	**第20回 高知医療センター　内科症例報告会**（参加費無料） 内容：当センターに紹介いただいた症例報告6題 場所：高知医療センター　2階　くろしおホール 時間：19：00～　対象：医療関係者 お問合せ：高知医療センター　地域医療連携室　TEL：088（837）3000（代）
	26	土	**高知医療センター　認定看護師・専門看護師　看護実践発表会**（参加費無料・事前申込要） 内容：「地域包括ケア時代」看護の力を未来につなげるために、認定看護師・専門看護師に期待されること 場所：高知医療センター　２階　くろしおホール 時間：12：30 ～ 16：15　対象：医療関係者 講師：四国医療産業研究所　所長　櫃本 真聿 氏 お問合せ：高知医療センター　看護局　がん看護専門看護師　池田　TEL：088（837）3000（代）
12月	3	土	**第44回 地域医療連携研修会**（参加費無料・事前申込不要） 内容：地域で取り組む感染対策 ～耐性菌・職業感染対策を中心に～ 場所：高知市総合あんしんセンター 3階（高知市丸ノ内1丁目7番45号） 時間：14：00 ～ 15：40　対象：医療関係者 講師：高知医療センター　医療局長　福井 康雄／感染症管理認定看護師　山﨑 みどり お問合せ：高知医療センター　地域医療連携室　門田・松本　TEL：088（837）3000（代）
	3	土	**高知医療センター看護局集合研修　他施設公開研修**（参加費無料・事前申込要） 内容：口腔ケアの基本 場所：高知医療センター　１階　研修室２・３ 時間：9：00 ～ 12：00　対象：看護師（20名） 講師：岸和田市立岸和田市民病院　摂食・嚥下障害看護認定看護師　梅本 通代 氏 参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター　看護局　教育担当（野中、野田、藤本）　TEL：088（837）3000（代）
	10	土	**高知医療再生機構　小児科専門医養成支援事業　教育講演会**（参加費無料・事前申込不要） 内容：小児甲状腺疾患へのアプローチ ～検査値の解釈と治療のさじ加減～ 場所：高知医療センター　２階　くろしおホール 時間：15：00 ～ 16：15　対象：医療関係者 講師：島根大学医学部附属病院　卒後臨床研修センター　センター長　鬼形 和道 氏 お問合せ：高知医療センター　小児科　西内 律雄　TEL：088（837）3000（代）

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

リレー・フォー・ライフって何するの？
夜通し歩くイベントと思っている人も多いかもしれませんが、実は、1985年、アメリカの１人の医師がトラックを24時間走り続け、「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援したのがはじまりです。がん患者さんやその家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん制圧を目指すチャリティ活動です。

リレー・フォー・ライフは、Save lifeを使命とし、がんの告知を乗り越え、生きていることを祝福し（Celebrate）、旅だった人を偲び（Remember）、がんに負けない社会を作る（Fight Back）ことを目指します。

このイベントは、2015年世界25カ国、2016年日本では49カ所で開催されます。
高知市でも10月8日～ 9日に城西公園にて開催されました。

私も、医療に携わる者としてSave lifeの使命を共有し、支援していきたいと思います。

（広報委員 池畠）

平成 28 年 11 月 1 日発行
にじ 11 月号（第 133 号）
毎月発行
編集者：広報委員会
発行者：吉川 清志
印　刷：株式会社 高陽堂印刷

発行元：
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池 2125-1
TEL：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp